

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりなき緊張感

向日葵はわが街のシンボル



2024 (令和6) 年6月15日 / 第88号

あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう

風早北部地域ふるさと協議会



シリーズ・防災知識を蓄えよう② 避難場所の収容力は？

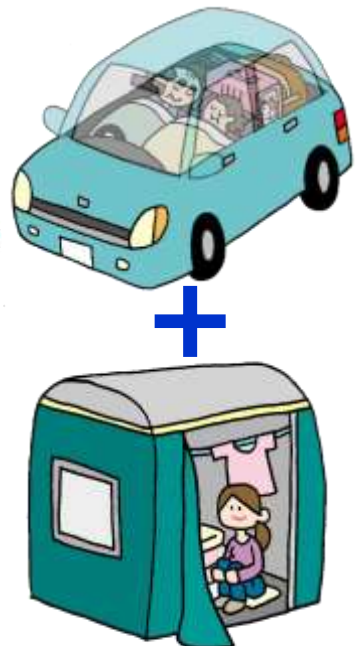
前号(第87号)では、風早北部地域内の避難場所につき紹介しました。その避難所ですが各地域住民が大規模災害で一斉に避難した際の規模と、それを受入れる学校校庭や体育館など市の指定避難所につき、どの程度受け入れ可能(収容力がある)かを皆さんはご存知でしょうか？



当会では、柏市が提供する直近の人口(世帯数)統計記録からそれを試算し、現行の市の指定避難所の収容数との対査を行いました。その結果は次頁(裏面)掲載のようになり、屋外収容施設は概ね避難住民の受け入れに対応可能ですが、**在宅避難できない住民を受入れる屋内施設は、抜本的に住民受入れの広さが一部避難施設を除いて全く足りない状況です。**特に集合住宅の多い大津ヶ丘地区は、雨風や寒さに何とか対応可能な屋内施設が根本的に不足しています。

私ども風早北部地域ふるさと協議会は5~6年前からこの問題を何度も指摘し、柏市担当部局に避難所不足の解決につき申し入れを行っていますが、現状では抜本的解決には一切至っていません。当地域以外に同様の課題を抱えた地域が多くあり、市として対策に窮している実情も漏れ伝わっています。

この問題を何とか解消に導くため、私どもでは「マイカー&マイテント避難」の実現を強く要望しています。更に今後は、指定避難所の新規設定を今回市に要望したいと考えています。具体的には、当地域内であれば、塚崎運動場、手賀の杜中央公園など比較的敷地面積が広い公共屋外施設を防災対策にも配慮した避難所として整備され、上記マイカー&マイテント避難が可能な場所を実現していくような提案です。また、市内各地の自然緑地公園の一層の整備(これらを災害時の住民避難スペースに最大限活用できるようにすること)を促進するよう求めて参ります。



現状での風早北部地域内の市指定避難場所・避難所の避難者収容力と試算の避難者数※

令和6年5月上旬に風早北部地域ふるさと協議会防犯防災部が作成

市指定避難所	屋外収容数	屋内収容数	想定避難者数
沼南高校	11,389	433	1,228
二松学舎大	9,698	838	121
風早中学校	5,595	273	988
大津ヶ丘中	8,247	259	1,583
大津第一小	5,366	120	2,821
大津第二小	5,557	120	1,228
風早北部小	2,569	105	613
近隣センター	—	660	☆
大津ヶ丘中央公園	16,500	—	☆
風早公園	7,160	—	☆
いこい荘	—	130	☆

【※注意】

屋外収容数、屋内収容数は柏市が各施設の避難者収容可能床面積を基に、屋内は一人4㎡、屋外は一人2㎡として机上で算出したものです。数値は昨年春先時点のものです。

想定避難者数は、柏市の人口及び世帯数統計(令和6年3月末時点)を基に当会が独自に集計したもので、震度6弱の地震の際に一戸建てで全体の2割、集合住宅で全戸住民が避難することを基本に算出しています。当地域外住民や帰宅困難者の受入れ数などは一切加味されていません。各避難所にどれくらいの住民が避難してくるかの大方の目安の数値として取り扱い願います。

表中の☆は、これまで当地域住民参加による避難移動訓練を実施していない施設や場所であるため、今回は想定される避難者数の試算対象にしていないことを申し添えます。